1．日本の良さ･強みを活かした世界への貢献

世界の多極化やデジタル経済圏の拡大が進む中で、新たな国際秩序の形成が求められる。地球規模での課題解決に向けて、世界全体での「共通利益」を示し、各国の利害を調整するリーダーが必要になる。

戦後の国際社会への貢献を通じてソフトパワーを培ってきた日本は、他国からの自発的な支援を集め、未来の多国間の枠組み作りに向けて重要な役割を果たしうる存在だ。他にも、成長と安定を両立する社会モデルや、社会課題を解決する技術など、日本の良さ・強みが豊かで持続可能な世界の実現に貢献できる面は大きい。

日本の経済的存在感は相対的に低下

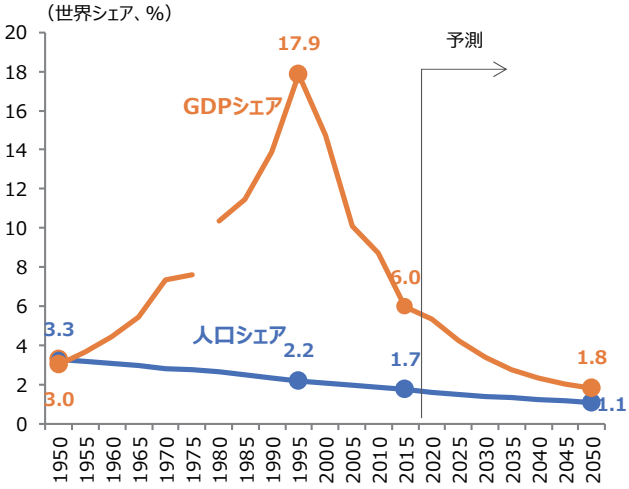
日本の GDP シェアはピーク時の 18%から 10 分の 1 へ

世界の中での日本の経済的存在感は低下していく。主要指標について、2015 年から 2050 年にかけての世界シェアを見ると、人口は 1.7%から 1.1%へ、経済規模は 6.0%から 1.8%へと大きく縮小すると予想される（図表Ⅱ-2-1）。1950 年から 1995 年にかけて、高度成長や円高の影響もあり、GDP シェアが急拡大し世界での日本の存在感が高まった。しかし、その後中国をはじめとした新興国が台頭する一方で、バブル崩壊とともに円安や少子高齢化も進行し、日本の存在感は低下していった。2050 年にかけてもこのトレンドは続くと見られ、日本の GDP シェアは 100 年かけて、再び人口シェア並みの水準に収れんしていく。

図表Ⅱ-2-1

GDP シェアはピーク時の 10 分の 1 へ

日本の GDP シェアと人口シェア



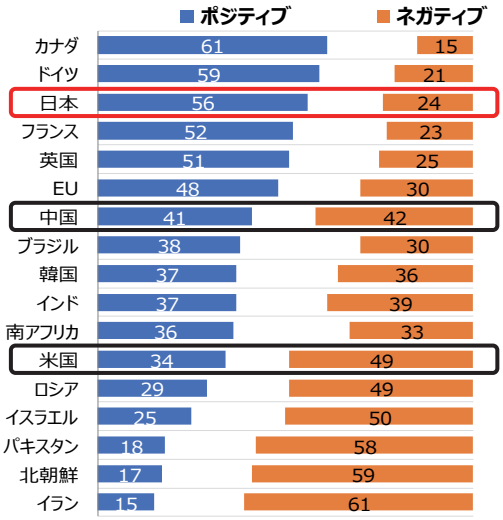
注：GDP シェアは、1975 年までは Maddison Project Database 推計、1980-2015 は IMF「World Economic Outlook」の実績値、2020 年以降は三菱総合研究所推計。

出所：グローニンゲン大学「Maddison Project Database」、IMF より三菱総合研究所作成、予測は三菱総合研究所

図表Ⅱ-2-2

経済規模と世界への貢献度は比例しない

世界に対する影響（ポジティブ／ネガティブ）



注：それぞれの国が世界に対してどのような影響を与えているかを主観的に評価したもの。

出所：BBC Poll「Views of Different Countries' Influence」より三菱総合研究所作成

Copyright© Mitsubishi Research Institute, Inc.

経済規模とは必ずしも比例しない世界への影響力

経済面での国際的なプレゼンスは低下を余儀なくされるが、経済規模と世界への影響力は必ずしも比例しない。英 BBC が世界各国で横断的に実施したアンケート調査によると、世界に対してポジティブな影響を与えている国として、カナダ、ドイツに次ぐ 3 番目に日本が評価されている（図表Ⅱ-2-2）。その背景には、軍事力を行使することなく、多国間の枠組みを重視し、国際的な問題を平和的に解決しようと努力してきた蓄積がある。利他や和を重んじる日本の良さ・強みにも通じる。

日本の良さ・強みを活かした世界への貢献

日本のリーダーシップの源泉となるソフトパワー

日本の経済力が相対的に低下していく中で、日本が国際社会への貢献に向けて重要な役割を果たすにはどうしたらよいか。米ハーバード大の Joseph Nye 特別功労教授によれば、リーダーシップにはハードパワーとソフトパワーの二つの要素がある[11]。経済力や軍事力などのハードパワー（強制的に他を従わせる力）に乏しい日本では、ソフトパワー（他からの自発的な支援を集める力）の発揮が重要である。ソフトパワーは集団として達成すべき共通の目標を設定し、その実現に他を巻き込む力であり、フォロワーをどれだけ動員できるかが重要である。

幸い、日本は現時点では高いソフトパワーを有している。戦後、多国間主義を掲げ、人道・開発支援や、保健衛生などの分野で多国間協力の主軸を担ってきた。こうした穏健で中庸な平和主義外交は、国際社会から高く評価されている。外交姿勢のみならず、日本の良さ・強みである「和・匠・美」の魅力は、日本に対するポジティブな評価を高める要素にもなっている。

世界の多極化やデジタル経済圏の拡大が進む中で、新たな国際秩序の形成が求められる。地球規模での課題解決に向けて、世界全体での「共通利益」を示し、各国の利害を調整するリーダーが必要になる。戦後の国際社会への貢献を通じてソフトパワーを培ってきた日本は、他国からの自発的な支援を集め、未来の多国間の枠組み作りに向けて重要な役割を果たしうる存在だ。他にも、成長と安定を両立する社会モデルや、社会課題を解決する技術など、日本の良さ・強みが豊かで持続可能な世界の実現に貢献できる面は大きい。

ソフトパワーを活かした世界への貢献のあり方として、①国際協調の枠組み作り向けて重要な役割を果たす、②成長と安定を両立する社会モデルの提示、③技術で社会課題を解決の三つを挙げたい。

①　国際協調の枠組み作りに向けて重要な役割を果たす

2050 年に向けて世界の多極化が進む中で日本が多国間主義を維持することは、これまで以上に重要になる。2015 年に「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ（SDGs）」で提示されたような世界共通課題を解決する過程において、先進国・発展途上国のそれぞれの立場による見解の相違がもたらす分断や各国が自国の利益のみを追求・主張することは、交渉の大きな弊害となる。豊かで持続可能な世界を実現するためには、個別の利害を乗り越え、世界全体が協調する必要がある。

「単独主義」を認めることは一国の短期的な利益にはなるが、長期的に見るとその国自身を含む世界全体の利益を損なうことにつながり、結果的にはよい方向に進まない。自国の利益だけに執着するのではなく、他国と一致した「共通利益」を設定し、互恵関係を構築することで、結果的に世界全体の利益を増やすことができる。さらにいえば、二国間にとどまらず多国間に拡大させることで国際協調を実現する。

---

[11] Nye, J. S. (2005), “ Soft Power: The Means To Success In World Politics”, PublicAffairs.

Copyright© Mitsubishi Research Institute, Inc.

戦後、日本は西側諸国と経済的なつながりを強めてきたものの、歴史を振り返れば、文化や人種といった面では、アジアや中東との親和性は高く、経済的なつながりも依然として強い。宗教面でも多神教がゆえに多様な宗教に対して寛容であり、宗教的な対立にも巻き込まれにくい。前述したように、戦後の日本が行ってきた世界への貢献により信頼を醸成してきた。一定の経済規模がありつつ、こうした中立的立場で調整役になりうる国は世界的にもまれだ。リーダーを失った国際秩序の再構築において、各国・地域からの信頼という財産は貴重なアドバンテージとなる。今後本格化するデジタル経済圏の中での国際的なルール作りなどにおいて、共通利益を得られる方向への合意形成を日本が主導していくことができれば、世界の持続的な発展に大きな貢献をする。

② 成長と安定を両立する社会モデルの提示

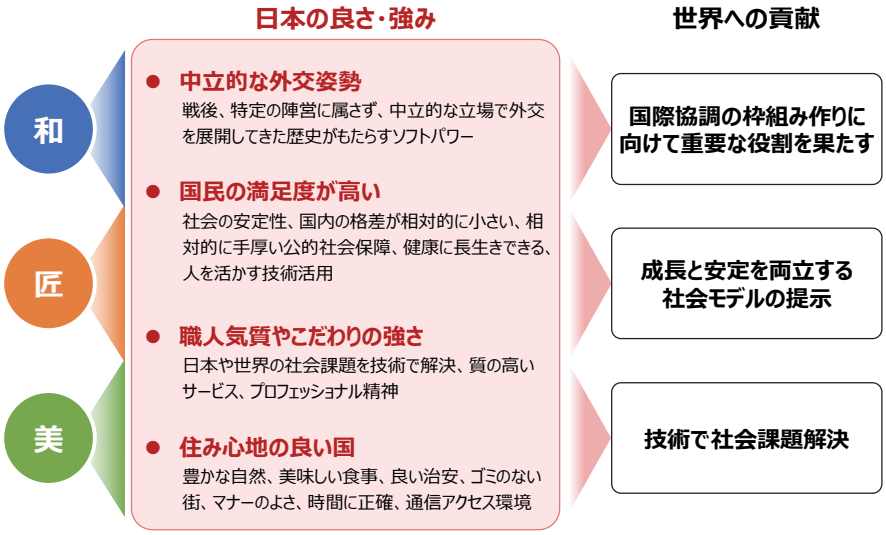
日本の特長でもある、経済成長と社会の安定（国民の満足）を両立する社会は、未来の社会モデルの選択肢の一つとして、世界各国の参考となる面も大きいだろう。世界では、経済がオープンになりグローバルな競争が激化する中で、その恩恵を受ける人とそこから取り残された人との格差拡大が社会の分断を招いている。そうした中で、一定の成長と社会の安定を維持している日本の社会システムは、世界各国の範となる面も大きいだろう。

日本で育まれた独自の文化や高付加価値サービスを世界に展開することもできる。デジタル技術が幅広く浸透していく中で物理的制約が低下していくと、日本の質の高い財・サービスを享受できる機会も拡大する。日本に移住するハードルも下がる。地方の市町村でも世界に通用する一芸を磨くことで世界にファンを広げることが可能だ。こうした日本企業や地域の競争力強化は、直接的に世界各国の消費者の生活の質を高めることに貢献する。

③ 技術で社会課題解決

イノベーションによる世界の社会課題の解決も重要な貢献となる。世界に先駆けて高齢化と人口減が進む中で、新たなデジタル技術の浸透による変革の波にもさらされる。国民の生活満足度（QOL）向上と財政健全化の両立、AI・ロボットの社会実装、経済格差の拡大と社会の安定の両立、人生 100 年時代を生き抜く人材力の強化など、日本が乗り越えていくべき課題は、今後、世界が直面する社会課題でもある。2050 年にかけて日本の試行錯誤の経験を通じて蓄積される知見やビジネスモデルは、豊かで持続可能な世界の実現に貢献するとともに、日本のソフトパワーを強化する重要な一助となる。

図表Ⅱ-2-3
日本の良さ･強みを活かした世界への貢献



出所：三菱総合研究所

Copyright© Mitsubishi Research Institute, Inc.